

**ROHM**  
SEMICONDUCTOR

## ROHM Group Innovation Report 2016

持続可能な社会を実現するために私たちが常に心がけていること

# 編集方針

## 本レポート発行の目的

ロームグループは、製品品質と経営品質の「革新 (innovation)」を通じて持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。

この目標に向かっての進捗をステークホルダーの皆様にご報告し、ロームグループへのご理解を深めていただくために「Innovation Report」を2012年度から発行しています。

これまで、ロームは、2001年度から「環境報告書」を発行し、2007年度からは「CSRレポート」に改め、2011年度まで発行しました。本レポートは、これらをさらに発展させたものです。

## 報告対象組織

ローム株式会社およびロームグループ各社 (国内・海外関係会社)

## 報告対象期間

2015年度 (2015年4月1日～2016年3月31日) 一部、この期間前後の事象・取り組みも報告しています。

## 発行時期

2016年6月 (次回: 2017年6月予定 前回: 2015年6月)

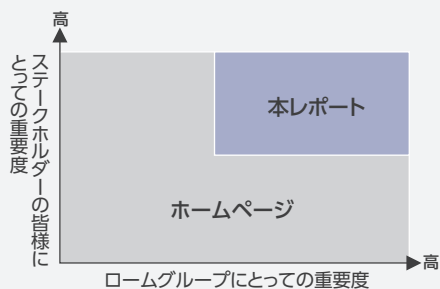
## 参考にしたガイドラインなど

- ・GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン 第4版 (G4)」
- ・ISO26000
- ・環境省「環境報告ガイドライン2012年版」
- ・EICC行動規範 Ver.5.1

## 他の報告媒体との関係

### ■CSR情報について

ホームページには「CSRへの取り組み」として、本レポートに掲載していない情報も掲載しています。また、環境保全に関する詳細情報も「環境データブック (PDF)」として掲載しています。本レポートとの関係は下図のとおりです。



### ■業績・財務情報について

各種法定開示書類のほか、アニュアルレポートなどを発行し、ホームページにも掲載しています。

#### 企業情報

<http://www.rohm.co.jp/web/japan/about-rohm>

#### CSRへの取り組み

<http://www.rohm.co.jp/web/japan/csr1>

#### 投資家情報

<http://www.rohm.co.jp/web/japan/investor-relations>

# 目次

## ROHM Group Innovation Report 2016

編集方針 / 目次	1
企業目的・方針	2
トップメッセージ	3
<b>Product Quality Innovation</b>	
製品品質の革新	6
ロームグループが目指す3つのECO	
ECO Earth	7
ECO Energy	9
ECO Life	11
その他製品のご紹介	13
<b>Management Quality Innovation</b>	
経営品質の革新	15
ISO26000に沿ってロームグループの「CSR重点課題」を特定	17
ISO26000 中核主題と活動	
組織統治	19
人権 / 労働慣行	21
環境	23
公正な事業慣行	25
消費者課題 (お客様への対応)	27
コミュニティへの参画および発展	29
ロームシアター京都	33
CSRの目標・計画と実績およびGRI-G4の指標	35
会社情報	39

ロームグループは国連グローバル・コンパクトに加盟しています。

国連グローバル・コンパクト (UNGC) とは企業をはじめとする組織体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって持続可能な発展を実現することを目指した国際的なイニシアティブ。UNGCを支持する企業は、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野にわたる10原則を実現することが求められます。



Network Japan  
WE SUPPORT

# 企業目的・方針

ロームグループは、社会から信頼され、期待される企業であるために、創業当初から掲げている企業目的をすべての社員に浸透させています。

**〔企業目的〕** われわれは、つねに品質を第一とする。  
いかなる困難があろうとも、  
良い商品を国の内外へ永続かつ大量に供給し、  
文化の進歩向上に貢献することを目的とする。

さらにこの企業目的を達成するための方針が定められており、事業活動の指針となっています。

**〔経営基本方針〕** 社内一体となって、品質保証活動の徹底化を図り、適正な利潤を確保する。  
世界をリードする商品をつくるために、あらゆる部門の固有技術を高め、  
もって企業の発展を期する。  
健全かつ安定な生活を確保し、豊かな人間性と知性をみがき、もって社会に貢献する。  
広く有能なる人材を求め、育成し、企業の恒久的な繁栄の礎とする。

---

**〔品質管理基本方針〕**

1. 社内標準化を全社的に推進し、データによる管理体制を確立する。
2. 総合的かつ継続的な調査活動を行い、新技術、新製品の開発に努める。
3. 企業活動のあらゆる分野において、統計的方法を積極的に活用する。
4. すべての工程において、品質保証の体制を確立する。
5. つねに生産方式の近代化を図り、製品のコスト低減に努める。
6. 材料、半成品の購入に際しては、契約によって納入者に品質保証をさせること。

---

**〔教育訓練基本目標〕**

1. 経営者、管理者、監督者、一般従業員たるを問わず、絶えず新しい知識の吸収に努め、広い視野に立って科学的に判断のできる人を育成する。
2. 知識と経験を生かし、その道の第一人者としての仕事に徹する人を育成する。
3. 逆境にあっても、つねに活路を見出し、積極的に目的を貫く人を育成する。
4. 全体の個であることに徹し、チームワークとしての成果を優先する人を育成する。

---

**〔教育訓練基本方針〕**

1. 全従業員は、あらゆる機会をとらえて自己の啓発に努力しなければならない。
2. あらゆる指導的立場にある者は、いかなるときも模範となる行動態度を自ら示さなければならない。
3. 教育訓練は、直接上司が日常業務を通じて行うものを主体とし、あわせて職場外教育訓練を実施する。
4. 各階層の長は、部下を正しく評価し、効果的な教育訓練を計画的かつ継続的に行う。
5. 各階層の長の評価は、部下に対する教育訓練の効果の程度によって行われることを原則とする。

創業以来、情報化社会の進展や価値観の多様化など、企業を取り巻く環境は変化していますが、これらの方針は不変かつ、事業活動の原動力となっています。

# Top | [トップメッセージ] Message

持続可能な社会を  
実現するために

## 創業時から連綿と受け継がれる ロームのCSV

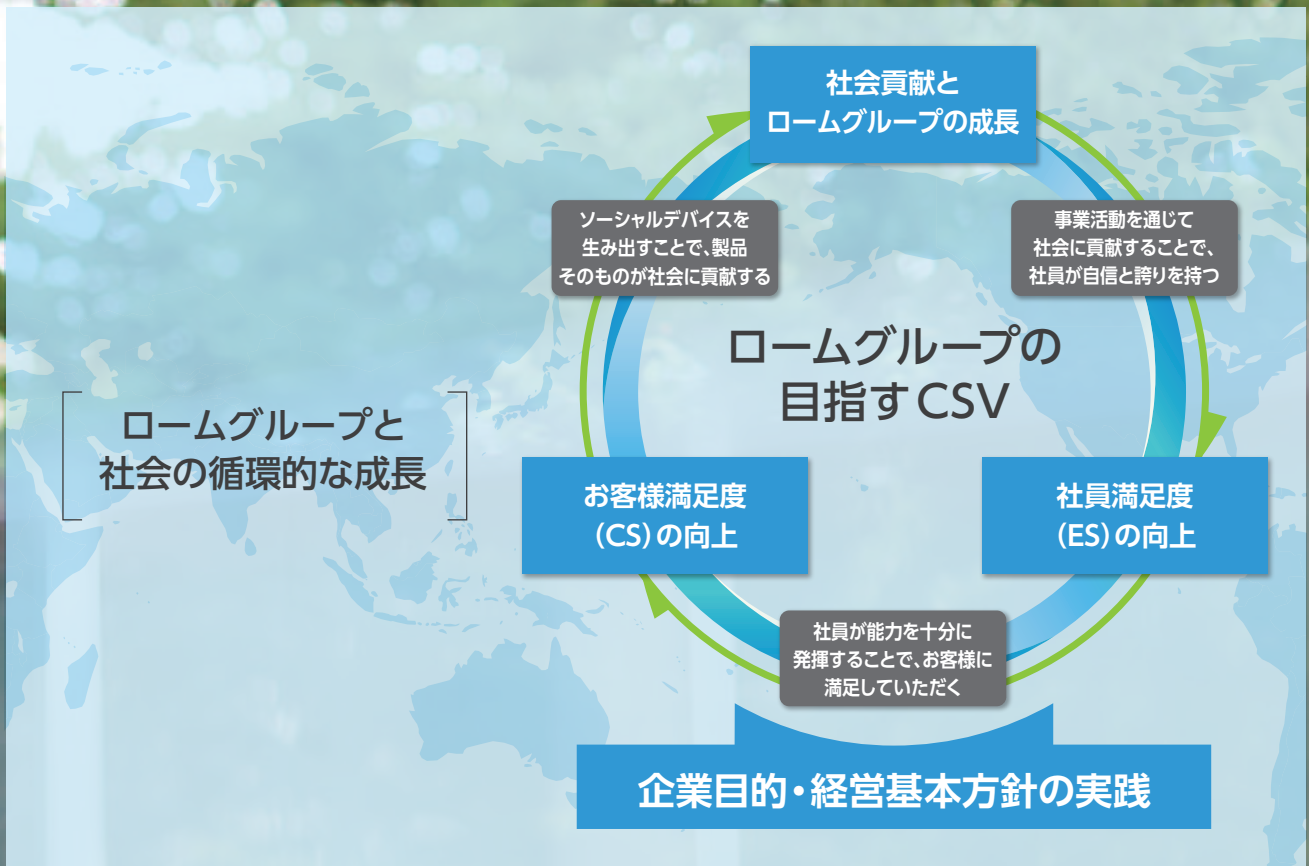
さまざまな社会的な課題を解決しつつ、企業活動を実践していくCSV（共通価値の創造）という考え方が、企業価値創造のアプローチとして一般的になってきました。地球人口が80億人に達するという予測もあるなか、食料や水だけでなく、電気などのエネルギーの枯渇も大きな問題であり、サステナビリティ（持続可能性）を考えた解決策の重要性が叫ばれていることもその背景にあります。

われわれロームにとってCSVは決して新しい考えではなく、1966年に制定された企業目的に「良い商品を国の内外へ永続かつ大量に供給し、文化の進歩向上に貢献することを目的とする」と掲げ、継続して取り組んでまいりました。

創業から50余年、企業規模や経営環境は大きく変化し、多様化が進んでいますが、根幹となる考えは不変であり、ロームのDNAとして連綿と受け継がれています。

社員一人ひとりが「企業目的」「経営基本方針」を実践し、革新的な商品開発や高品質なモノづくりを進めることは、お客様満足度（CS）を向上させるとともに社会への貢献につながると考えています。そして、そのことが、社員の自信と誇りを高め、新たな挑戦を生み出す原動力にもなります。

ロームグループでは、この良循環をわれわれのCSVと位置づけ、世界中の多様な人材を集め、いきいきと活躍できる場を整えながら、真摯に企業活動に取り組むことで、ステークホルダーの皆様のご期待にこたえられる企業を目指しております。



## CSV活動を加速させる 3つのECO

ロームは、製品を通じて社会に貢献するため、省エネ、安全、快適、そして小型化をキーワードに革新的な製品を供給してまいりました。近年では、技術革新が進む自動車市場のほか、IoT化が進む産業機器市場、そしてスマートフォンに代表されるIT機器市場など、幅広い分野に向けたキーデバイスを数多く提供しています。

このたび、これらCSV活動をさらに加速するためのキーワードとして、3つのECO[ECO Earth、ECO Energy、ECO Life]を定めました。

### ロームグループが目指す3つのECO



#### ECO Earth

地球環境に配慮した社会貢献



#### ECO Energy

省エネに配慮した社会貢献



#### ECO Life

安心・安全・快適を実現し  
生活を豊かにする社会貢献

## ECO Earth

### ～品質第一の追求によるムダのないモノづくり～

「ECO Earth」は、創業以来、大切に守り続けている「品質第一」の追求によって、あらゆるムダを省いた効率的なモノづくりを行い、環境負荷を極限まで低減する取り組みです。

この活動を支えるのが、開発から製造までを一貫してグループ内で行う「垂直統合」システムです。あらゆる工程で高い品質をつくり込み、徹底的にムダを省いたモノづくりを進めることは、生産効率を高め、製造過程における温室効果ガスの排出削減や省資源、省エネルギー化につなげていきます。

## ECO Energy

### ～高効率、低損失で省エネを実現～

「ECO Energy」は、省エネルギーを実現する製品を提供する取り組みです。

その中核を担うのが、ロームが最も得意とするアナログ技術に、デジタル技術・ソフトウェア技術を融合し、お客様がより使いやすい高効率、高精度の電源やモータドライバを提供するアナログソリューションです。また、世界最先端を誇るSiCを中心としたパワーデバイス技術と、そのデバイス性能を最大限に活かす制御ICやモジュール技術を組み合わせた最適なパワーソリューションの提供により、自動車や産業機器分野の劇的な省エネ化・小型化に貢献してまいります。

## ECO Life

### ～小型、安全、快適性を実現～

「ECO Life」は、安心、安全で快適かつスマートな社会の実現をサポートする取り組みです。

拡大が期待されるIoT分野では、特長あるセンサ技術と、制御技術や無線通信技術を最適に組み合わせたセンサソリューションにより、IoT導入を加速するモジュールなどを提供しております。

一方、多機能化が進むスマートフォンなどの進化を支えるのが、超小型、薄型の電子部品です。半導体で培った技術を活かした世界最小「RASMIDシリーズ」をはじめ、ロームの超小型部品シリーズが充実してまいりました。従来手法の小型化も加速し、モバイルソリューションとして機器のさらなる小型・軽量化に貢献してまいります。

## 企業目的の実践で

### 製品品質と経営品質を高める

「製品品質」を高める一方、企業としての品質・品格ともいえる「経営品質」を高めることも重要と考え、ロームではグループを横断するCSR委員会の組織整備を行うとともに、電子業界の行動規範であるEICCに準拠した活動にも積極的に取り組んでおります。

ロームグループでは引き続き、社員一人ひとりが「企業目的」を実践し、革新的な商品開発や質の高いモノづくりを進めることで社会に貢献し、ステークホルダーの皆様のご期待にこたえられる企業を目指してまいります。

2016年6月

*Satoshi Sawamura*

代表取締役社長 澤村 諭



# 製品品質の革新

Product  
Quality  
Innovation

ロームグループでは社会的課題の解決に貢献できる革新的な製品の開発を目指しています。

ロームグループが 目指す3つのECO	ECO Earth ..... P.7~
	ECO Energy ..... P.9~
	ECO Life ..... P.11~
その他製品のご紹介	..... P.13~

## ロームグループの製品群

### ■ IC / LSI

メモリ  
アンプ / リニア  
クロック / タイマ  
スイッチ / マルチプレクサ / ロジック  
データコンバータ  
インターフェース  
パワーマネジメント / 電源IC  
モータ / アクチュエータドライバ  
LEDドライバ  
表示用ドライバ  
センサ / MEMS  
通信用LSI (LAPIS)  
オーディオ / ビデオ  
音声合成LSI (LAPIS)  
マイクロコントローラ (LAPIS)

### ■ パワーデバイス

SiCパワーデバイス  
IGBT  
インテリジェントパワーモジュール  
パワートランジスタ  
パワーダイオード  
高電力抵抗器

### ■ 小信号デバイス

トランジスタ  
ダイオード

### ■ パッシブデバイス

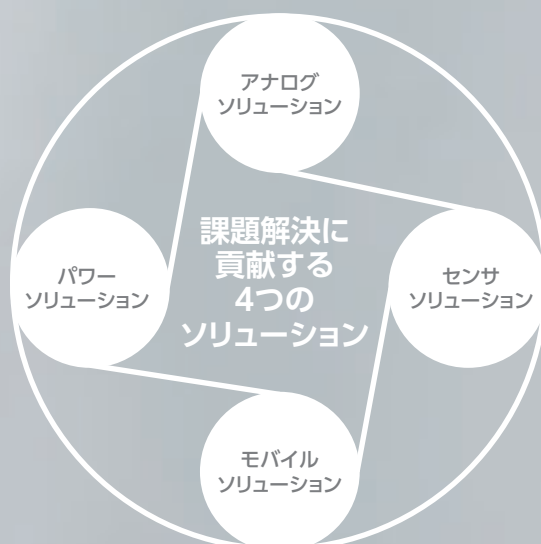
抵抗器  
タンタルコンデンサ

### ■ オプトデバイス

LED  
LEDディスプレイ  
半導体レーザ  
光センサ  
IrDA赤外線通信モジュール  
リモコン受光モジュール

### ■ モジュール

電源モジュール  
無線通信モジュール  
コンタクトイメージセンサヘッド  
サーマルプリントヘッド





# ECO Earth



## 垂直統合型生産体制が実現する 高品質・安定供給

### 高品質

品質第一を追求するため、グループ内で開発・生産から販売・サービスまでを行い、すべてのプロセスで品質を高める活動に取り組んでいます。

#### 原材料からのこだわり

シリコンのインゴット引き上げからウエハを製造



シリコン原石

#### 内製フォトマスク

チップデザインのレイアウトからフォトマスク製造まで一貫した品質管理

CAD

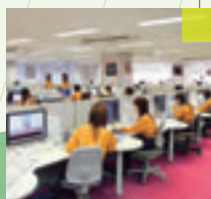


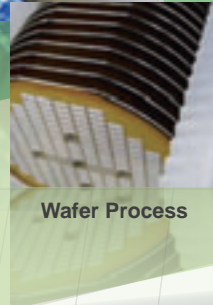
Photo Mask



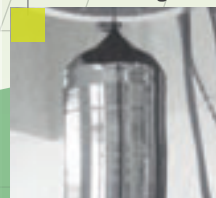
Wafer



Wafer Process



Silicon Ingot



Wafer

シリコン

# Si



シリコン  
カーバイド

# SiC

**SiCrystal** AG

SiCrystal社は2009年にロームグループの一員となったドイツのSiC単結晶ウエハメーカー



# 品質のつくり込みによる、ムダのないモノづくりで地球環境への負荷を極限まで低減します。

## Pick up 01 | CDP WaterプログラムのAリストに選定

～世界で最も水を大切にしている企業に選ばれました～

半導体ウエハを製造するためには、きれいな水が欠かせません。ロームは半導体メーカーとして、水環境に対する負荷を減らすため、これまで節水と水のリサイクルに取り組んできました。同時に、供給責任を果たすために水

リスクはもちろんのこと、自然災害やインフラ問題など、さまざまなリスクを想定したBCM(事業継続マネジメント)体制を構築しています。その取り組みもあって、2015年10月、水リスクに対する国際規範「CDP Waterプログラム」

の最高評価Aリストに選定していただくことができました。今後もその評価に恥じることがないように、地球環境に配慮したモノづくりを行ってまいります。



## 垂直統合型生産体制 / Vertically Integrated Production System

ロームは企業目的に「品質第一」を掲げ、追求しています。その品質第一を形にした「垂直統合型生産体制」により、インゴットの引き上げから完成品に至るまで、あらゆる工程で品質をつくり

込んでいます。動作や運搬、停滞時に生じるムダを徹底的に排除し、ダントツの品質をつくり込むためのRPS(ロームプロダクションシステム)活動はその一つで、世界最高の工場を実現す

るために活動をさらに強化しています。このような取り組みは、高品質・安定供給のモノづくりだけでなく、資源をムダなく活用する地球環境に優しいモノづくりにも貢献しています。

### 内製金型・リードフレーム

リードフレーム抜き打ち用の金型とモールドの金型も内製化



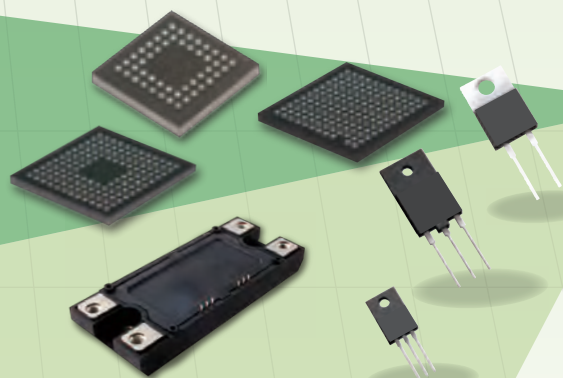
Frame



Assembly Line



Packaging



### 最先端パッケージ

CSP、BGA、スタックドパッケージなど最先端のアクセサリ技術を提供

## 安定供給

外部からの影響を受けにくい一貫生産を軸に、お客様に安心して製品をお使いいただけるよう長期安定供給を実施しています。



# ECO Energy



## アナログパワー

### Analog Power

ECO Energyを実現するためのキーワードが「アナログパワー」です。アナログパワー技術で世界一を目標に、高い技術力と豊富な経験を持つアナログエンジニアが、世界最先端のプロセス技術と回路設計技術を駆使し、電力変換の高効率化を実現する製品開発に取り組んでいます。ディスクリートデバイスからIC、モジュールまで、多彩なラインアップを活かした最高のソリューションで、社会の省電力化に貢献しています。

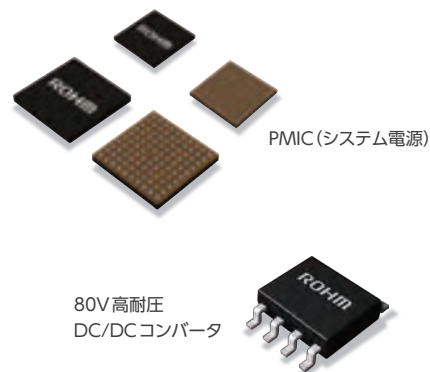


# あらゆる分野に高効率化と低損失化を提供し、 社会の省エネに貢献します。

## アナログソリューション

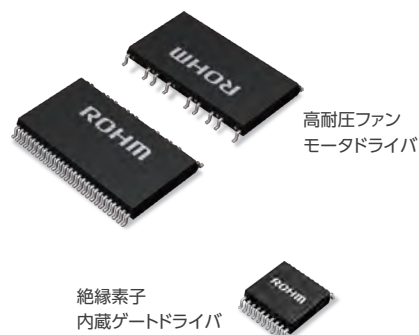
### パワーマネジメント

機器の頭脳となるMCU・CPUに対し、最適な電力を効率良く供給することで、バッテリー駆動時間や機器システムの進化に貢献します。昨年グループに加わったROHM POWERVATION社のデジタル電源技術を組み合わせ、より高精度かつ高効率のソリューションを提供しています。



### モータドライバ

全世界の消費電力のうち、約50%がモータに使用されていると言われており、エアコンやロボットなど、モータを搭載した製品の普及に伴い、消費電力はますます増大すると考えられています。高精度のモータドライバを追求し、モータを効率的に駆動することで世界の消費電力削減に貢献します。



## パワーソリューション

### パワーデバイス

自動車や産業機器をはじめ、大電力を扱うアプリケーションのエレクトロニクス化が進んでいます。劇的な低損失化を実現するSiC (シリコンカーバイド) デバイスを中心に、最先端のパワーデバイスで社会システムの省電力化・小型化に貢献します。

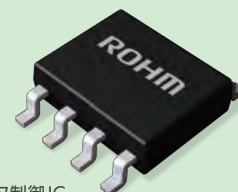


## Pick up 02 | SiCデバイスの性能を最大限に引き出す駆動用ICの開発

業界をリードするSiCデバイスでは、さらなる低損失化を可能にするダブルトレンチ構造のSiC-MOSFETを世界で初めて開発・量産するなど、デバイスの進化に向けて積極的に取り組んでいます。さらに、デバイスの性能

を最大限に引き出す駆動用ICも開発しています。2016年4月には、1700V耐圧のSiC-MOSFETとその駆動に最適な制御ICの提供を開始しました。ローム独自の最先端パワーソリューションで、

SiC 駆動用 AC/DC コンバータ制御 IC



アプリケーションの劇的な省電力化・小型化に貢献します。



# ECO Life



## センサネットワーク

### Sensor Network

ECO Lifeを実現するためのキーワードが「センサネットワーク」です。IoT(モノのインターネット)においては、状態を検知するための「センサ」とセンサが得た情報を共有するための「ネットワーク」が重要な役割を果たします。ロームグループのラピスセミコンダクタ株式会社とKionix社の技術を結集し、低消費電力で高精度なセンサネットワークを構築することで、安全・快適な生活実現に貢献しています。

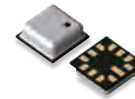


# スマートなセンサネットワークと小型・軽量デバイスで、安心・安全・快適を実現し、生活を豊かにします。

## センサソリューション

### センサデバイス

MEMS(微小電気機械システム)技術やフォトニクス技術で構成される豊富なセンサエレメントと、エレメントを活かす最適なASIC(特定用途向け集積回路)を合わせることでさまざまなセンサデバイスを実現しています。加速度や気圧などの動きと、色や照度などの環境情報を高精度にセンシングし、安全・快適を実現するセンサ環境構築を進めています。



気圧センサ



センサメダル

### 通信デバイス

拡大が期待されるIoT分野では、さまざまな環境でネットワークを構築することが求められます。ロームは「Wi-Fi」や「Bluetooth® Smart」に加えて、省エネで遠くまでつながる無線通信「Wi-SUN」や電池レスの無線通信「EnOcean」などを取りそろえ、広がる市場の幅広いニーズにこたえています。



Wi-SUN  
モジュール



EnOceanスイッチモジュール

## モバイルソリューション

### 超小型デバイス

多機能化が進むスマートフォンなどの進化を支えるのが、超小型、薄型の電子部品です。RASMID®シリーズを始め、世界最小デバイスのラインアップを取りそろえ、機器の小型化や機能向上に貢献しています。



RASMID®シリーズ  
(チップ抵抗器、ダイオード)

超小型低背チップLED  
PICOLED®シリーズ



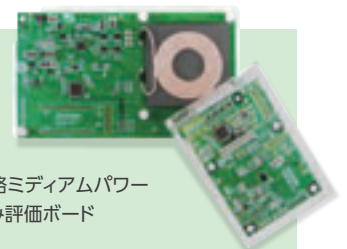
## Pick up 03 | 15ワット級ワイヤレス給電デザインが世界初の認証を取得

ワイヤレス給電は、機器コネクタの安全性・防水性・防塵性の向上が見込まれ、スマートフォンやタブレット、キッチン用品などで採用が進んでいます。充電スタンドにおいても、ホテルや空港ラウンジ、自動車のセンター

コンソールなどに広がっています。2015年11月、ワイヤレス給電の最先端国際規格「WPC Qi規格ミディアムパワー」に対して、ロームのリファレンスデザインが、世界で初めて認証を取得しました。2016年4月から評価ボード

WPC Qi規格ミディアムパワー  
認証取得済み評価ボード

の提供も開始しており、安全で快適な環境を構築できるワイヤレス給電の普及に取り組んでいます。



ロームグループは、お客様のさまざまなニーズにこたえることはもちろん、省エネルギーや安心、安全といった社会課題の解決に貢献する多くの製品を提供しています。



## IC / LSI

### 汎用IC

メモリ、オペアンプ・コンパレータ、リセットIC、電源IC、データコンバータなど、体系化された特性とパッケージのラインアップを取りそろえ、さまざまな機器の高機能化に貢献しています。



用途に適応する豊富なパッケージラインアップ

### オーディオIC

自社の電波暗室や試験室で得たノウハウと、シミュレーションでは再現できないアナログ技術を駆使し、極限まで音質を追求しています。ポータブル音源からハイレゾ音源、カーオーディオまで、高音質や高信頼性が要求されるアプリケーションに採用されています。



ハイレゾ音源対応  
サウンド・プロセッサ

### マイクロ コントローラ



ラピスセミコンダクタ株式会社のローパワーマイクロコントローラは、独自のローパワー技術で、業界トップクラスの省エネ性能を実現しています。ノイズ・高温環境下に強いタフマイコンシリーズの提供も開始し、家電、産業機器の高信頼化と低消費電力化に貢献しています。

16bit ローパワー  
タフマイコン

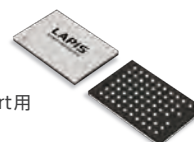


### 無線通信LSI



ラピスセミコンダクタ株式会社の近距離無線通信LSIは、さまざまな国際規格に準拠するラインアップを準備。民生機器から産業機器・車載機器まで多彩な用途で使用されています。開発ツールと豊富な経験に基づくご提案で、低消費電力かつ高信頼のネットワークを構築しています。

Bluetooth® Smart用  
通信LSI

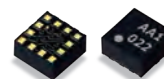


### MEMSセンサ



MEMSセンサはKionix社を中心に提供しています。中核を担う加速度センサは、超低消費電力、耐衝撃性能に優れ、モバイル機器など幅広いアプリケーションに採用されています。加速度センサとジャイロセンサからなる6軸コンボセンサの提供も開始しています。

加速度センサ



# ディスクリート / パッシブデバイス

## トランジスタ / ダイオード

SiCを中心に、大電力に対応する先進的パワーデバイスの拡充・強化を進めるとともに、小型・ローパワー分野の技術を追求しています。自動車や産業機器からスマートフォンまで、あらゆるアプリケーションの省電力化と小型化に貢献します。



## LED / 半導体レーザー

独自のデバイス技術と精密加工技術の融合により、小型・ハイパワーを可能にしました。直近ではモーションセンサや位置検出センサなどの新規分野の創出に向けて開発を進めています。



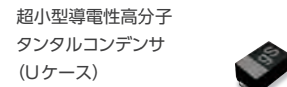
## 抵抗器

創業製品でもある抵抗器では、世界初の角型チップ抵抗器を開発（1976年）するなど、常に業界をリードする開発を進めてきました。生産設備の増強を進めるとともに、車載・産業機器分野に対応する高信頼・ハイパワー品のラインアップを強化しています。



## タンタルコンデンサ

タンタルコンデンサは、チップ積層セラミックコンデンサと比べ、小型・大容量、温度特性、DCバイアス特性に優れています。進化するモバイル機器のニーズに応えるため、ESR（等価直列抵抗）が低く難燃性に優れた、導電性高分子タンタルコンデンサの小型・大容量品のラインアップを強化しています。



# モジュール

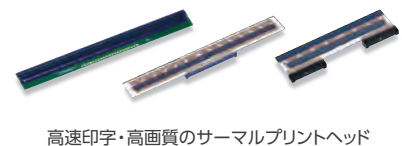
## オプティカルモジュール

高輝度・高感度・高信頼性の光センサと、社内各部門との技術コラボレーションにより製品化した複合モジュールの開発を行っています。また、車載・産業機器分野への展開として、より高信頼性ラインの構築に取り組んでいます。



## サーマルプリントヘッド

レシートプリンタや物流バーコードプリンタなどで使われているサーマルプリントヘッドでは、高信頼性の厚膜印刷技術・薄膜成膜技術に加えて、独自に開発した高性能ドライバICを活用することで、業界トップシェアを獲得しています。



## コンタクトイメージセンサヘッド

ドキュメントスキャナなどで使われるコンタクトイメージセンサヘッドでは、高速・高感度センサや独自に開発した均一分布光源を活用した製品を開発しています。また、非可視光を用いた特殊光源の開発を進めて、紙幣鑑別などのセキュリティ分野向け製品の開発にも取り組んでいます。





# ロームグループとISO26000

ロームグループはCSRの視点から事業活動を検証するため、2011年よりISO26000に準拠し、7つの中核主題それぞれについて課題を特定し、グローバルに活動を行っています。



# 経営品質の 革新

Management  
Quality  
Innovation

ロームグループでは、企業におけるCSR(企業の社会的責任)を経営品質ととらえ、ロームグループCSR方針を定め、グループの持続的な成長と、社会の健全な発展に貢献しています。

ISO26000に沿ってロームグループの「CSR重点課題」を特定 …… P.17～

## ISO26000中核主題と活動

- 組織統治 …… P.19～
- 人権/労働慣行 …… P.21～
- 環境 …… P.23～
- 公正な事業慣行 …… P.25～
- 消費者課題(お客様への対応) …… P.27～
- コミュニティへの参画および発展 …… P.29～
- ロームシアター京都 …… P.33～

CSRの目標・計画と実績  
およびGRI-G4の指標 …… P.35～

## ISO26000中核主題

[ ISO26000とは ]

国際標準化機構 (ISO) によってマルチステークホルダー・プロセスで開発された、あらゆる種類の組織に向けた、社会的責任に関する規格。



組織統治



人権/労働慣行



環境



公正な  
事業慣行



消費者課題  
(お客様への対応)



コミュニティへの  
参画および発展

# ISO26000に沿ってロームグループの 「CSR重点課題」を特定

マテリアリティ

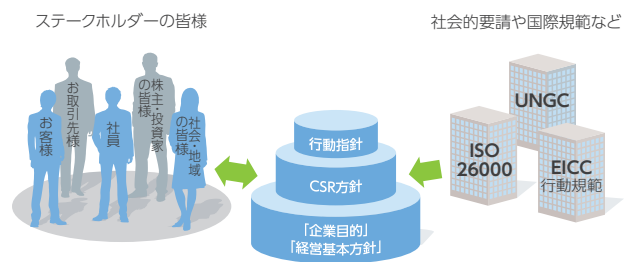
## ロームグループのCSRの考え方

ロームグループは、創業当時より「企業目的」「経営基本方針」などの目的・方針の実践を通じて、ステークホルダーの皆様との相互信頼関係を構築することで、グループの持続的な成長と、社会の健全な発展に貢献してきました。

この目的・方針を基盤として、CSRの側面から、グローバルな視点で誠実に事業活動を行い、社会の持続的な発展に貢献するために定めたものが「ロームグループCSR方針」であり、これらをより確実に実行していくうえでの倫理上の基本ルールとして「ロームグループ行動指針」を定めました。

「企業目的」「経営基本方針」などの目的・方針は不変ですが、「CSR方針」および「行動指針」は、変化する社会的要請や、国連グローバル・コンパクト(UNGC)、ISO26000、EICC(電子業界CSR

アライアンス)行動規範といった最新の国際規範などに沿って、進化していきます。



ロームグループCSR方針 <http://www.rohm.co.jp/web/japan/csr1/csr-csr>

## GRI-G4に基づく「CSR重点課題」の特定サイクル

ロームグループでは、事業を展開するうえで、常に異なるステークホルダーの皆様との対話の機会をグローバルに設けています。この対話のなかでいただいたあらゆるステークホルダーの皆様のご意見、ご要望、ご関心、ご懸念を検討し、ISO26000に沿った「CSR重点課題」を定めています。(P.18をご参照ください。)

また、「CSR重点課題」は、外部の有識者や専門家など、さまざまな

立場のステークホルダーの皆様の視点から妥当性を評価していただいています。

さらに、目標・計画(Plan)を実現・達成するための取り組み(Do)とその実績については、客観性を確保するため、第三者機関の外部監査による検証(Check)を行い、次の目標・計画を決定(Act)し、定期的にPDCAによるレビューを実施しています。



バリューチェーン：調達した原材料から、製品やサービスとなって使用されるまでの一連の流れのなかで付加価値を高めていく活動。

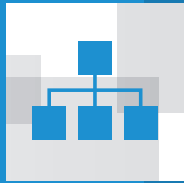
2015年度「CSR重点課題」とGRI-G4開示項目

「CSR重点課題」	該当するG4の側面と指標 ( )内は指標を示す	重点課題の選定理由	本冊子における 関連報告ページ
革新的な製品による 社会的課題の解決	大気への排出(G4-EN17)	CO <sub>2</sub> 排出などによる気候変動、資源・エネルギー問題など地球規模の環境問題に対する解消・緩和と省エネルギー化が社会から求められています。ロームグループではさまざまな社会的課題を解決するための革新的な新製品、新技術の開発を進めています。	P.6-14 製品品質の革新 P.23-24 環境 P.27-28 消費者課題
	製品およびサービス(G4-EN27)		
高品質な製品の 安定供給	間接的な経済影響(G4-EC8)	ロームグループの製品は、お客様の最終製品などの機器に組み込まれて使用されており、その品質低下や供給停滞がお客様や消費者へ悪影響を及ぼす恐れがあります。こうしたリスクを最小限にとどめ、安定的かつスピーディに高品質な製品を供給する体制を維持するため、組織体制の強化や全社的なBCP(事業継続計画)訓練などを実施しています。	P.25-26 公正な事業慣行 P.27-28 消費者課題
	コンプライアンス(G4-PR9)		
国際社会に貢献 できるグローバル 人財の育成	雇用(G4-LA3)	経済のグローバル化が進行するなか、ロームグループでは生産拠点や販売、流通拠点を世界各地に設け、各地域における異なる背景、価値観を受容し、協働して新しい価値を生み出すことができる多様な人財を育成しています。	P.21-22 人権/労働慣行
	多様性と機会均等(G4-LA12)		
バリューチェーンに おける人権尊重の 徹底と労働慣行 などへの配慮	保安慣行(G4-HR7)	バリューチェーンがグローバルに拡大するなか、途上国などにおける人権への配慮、労働環境の改善、腐敗防止が求められています。ロームグループでは、国連グローバル・コンパクトやISO26000、EICC行動規範などの国際規範に基づき、これらに配慮しながら事業活動を推進しています。また、自社のみでなくバリューチェーンにおいても、EICC行動規範などの遵守に努めています。	P.21-22 人権/労働慣行 P.25-26 公正な事業慣行
	サプライヤーの社会への影響評価(G4-S09,10)		
	サプライヤーの人権評価(G4-HR10,11)		
	サプライヤーの労働慣行評価(G4-LA14,15)		
	労働安全衛生(G4-LA6,7)		
	腐敗防止(G4-S04)		
地球環境に 配慮した 事業活動の推進	大気への排出(G4-EN5,15,16,17,18,20,21)	CO <sub>2</sub> 排出などによる気候変動、資源・エネルギー問題など地球規模の環境問題に対する解消・緩和と省エネルギー化が社会から求められています。ロームグループでは環境問題を解決する革新的な製品を開発するだけでなく、製造する際の環境負荷を全生産拠点において低減することで、持続可能な社会の実現に努めています。	P.23-24 環境
	排水および廃棄物(G4-EN23)		
	水(G4-EN8)		
	エネルギー(G4-EN3)		
	サプライヤーの環境評価(G4-EN32,33)		
事業を通じた地域 コミュニティへの貢献	地域コミュニティ(G4-SO1)	事業活動を行ううえでコミュニティとの対話を通じた地域の発展・活性化は重要です。グローバルに事業を展開するロームグループとして、常に事業地域における社会的課題を解決する取り組みを進めています。	P.29-34 コミュニティへの 参画および発展

(指標に関してはP.35-38をご参照ください。)

GRI-G4とは

持続可能性報告書の国際的ガイドラインを策定・発行する国際的NGO(非政府組織)である「グローバル・レポートング・イニシアチブ(GRI)」が、2013年にこれまでの「網羅的な情報」から、「重要課題に焦点を当てた情報開示」に内容を改訂した第四版となるガイドライン。



# 組織統治

ロームグループでは、公正性、健全性、透明性に根差した事業活動を行うよう、コーポレートガバナンスの充実に努めています。



## コーポレートガバナンスの基本的な考え方

ロームでは、ステークホルダーの皆様の立場に立って、企業の持続的な成長と中長期的な企業価値を最大化することをコーポレートガバナンスの基本的な考え方

とし、「ローム・コーポレートガバナンス・ポリシー」を制定・公表しています。

[ローム・コーポレートガバナンス・ポリシー  
http://www.rohm.co.jp/web/japan/investor-relations/corporate-governance](http://www.rohm.co.jp/web/japan/investor-relations/corporate-governance)

## コーポレートガバナンス体制

ロームでは、経営環境の変化が激しい半導体業界にあって、ロームグループの事業や技術に精通した取締役自らが執行権を持つと同時に相互に監督しあうことが、ロームに適した機動的かつ実効性の高い経営・統治システムであると考えています。

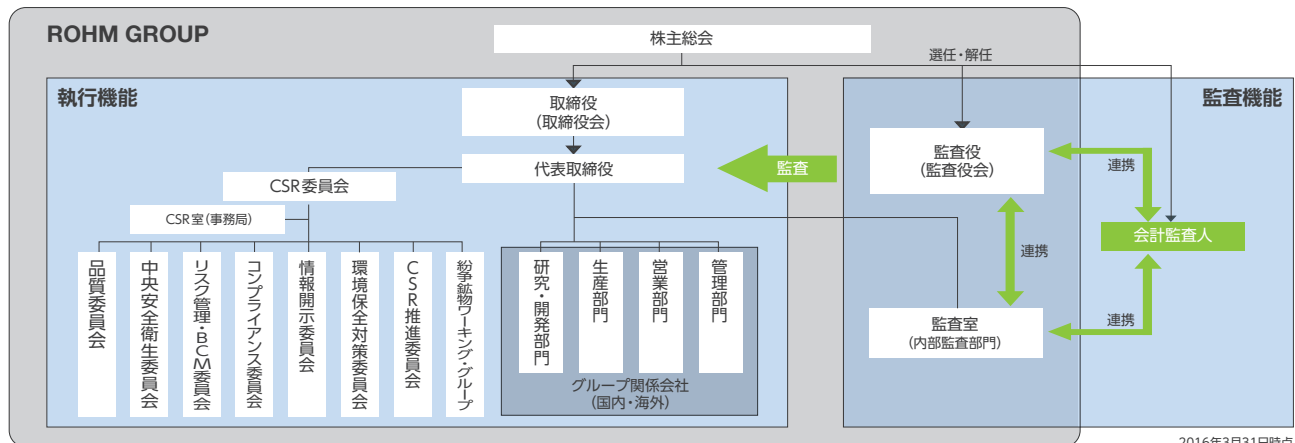
そのうえで、取締役の人数を10名以内と定款で定め、取締役会が十分な議論のうえに的確かつ迅速な意思決定を行うことができるようにするとともに、社外取締役

(独立役員)2名を選任し、取締役による相互監督機能を強化しています。

また、従来より監査役会を設置し、それを構成する5名の監査役は全員を独立した社外監査役として取締役の業務執行を監査しています。

さらに、内部監査部門として監査室を設置し、監査役や会計監査人と連携し、社内規程の準拠性や資産の健全性などを監査しています。

### ■ コーポレートガバナンス体制図



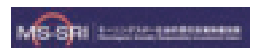
2016年3月31日時点

[コーポレートガバナンス報告書](http://www.rohm.co.jp/web/japan/investor-relations/library/corporate-governance) <http://www.rohm.co.jp/web/japan/investor-relations/library/corporate-governance>

## 適時的確なIR活動 (株主・投資家の皆様との コミュニケーション)

世界中の株主・投資家の皆様に対して、業績動向をはじめとする企業情報をタイムリーに開示するなど、積極的なコミュニケーションをはかっています。また、ディスクロージャーポリシーを定め、公正で正確な情報のタイムリーな提供に努めています。

■ ロームがCSRの側面から構成銘柄として選定されているSRI(社会的責任投資)インデックス



[投資家情報ホームページ](http://www.rohm.co.jp/web/japan/investor-relations) <http://www.rohm.co.jp/web/japan/investor-relations>

[ディスクロージャーポリシー](http://www.rohm.co.jp/web/japan/investor-relations/disclosure-policy) <http://www.rohm.co.jp/web/japan/investor-relations/disclosure-policy>



組織統治



人権/労働慣行



環境



公正な  
事業慣行



消費者課題  
(お客様への対応)



コミュニティへの  
参画および発展

## 国際的な規格などに 準拠したマネジメントシステム

ロームグループでは、品質、環境、労働、安全衛生、情報セキュリティなどの各分野においてマネジメントシステムの認証を取得して

おり(下表、ご参照)、内部監査の実施や外部監査を受審しながらCSR経営のPDCAサイクルを回しています。

### ■ マネジメントシステムの取得・運用状況

テーマ		マネジメントシステム認証 / 顧客要求	取得状況
製品品質		ISO9001 ISO/TS16949	ロームグループ各社でISO9001の認証を取得しており、主要生産拠点はISO/TS16949の認証も取得。
経営品質 (事業活動の品質)	環境	ISO14001	ロームグループ各社でISO14001または、それに準拠したマネジメントシステムを構築。 <sup>※3</sup>
	労働安全衛生	OHSAS18001	ロームが2013年に取得。 国内主要拠点で認証取得、海外生産工場4拠点で認証取得。
	情報セキュリティ	ISO/IEC27001	ロームが2013年7月に取得。
	労働・安全衛生・環境・倫理 マネジメントシステム	EICC <sup>※1</sup> VAP監査 <sup>※2</sup>	ロームグループ各生産拠点で2年に1度、第三者機関による監査を受審。

※1 EICC : Electronics Industry Citizenship Coalitionの略称。主に電子機器関係のメーカーや大手サプライヤーによって構成される団体およびその規範。

※2 VAP監査 : VAPとは“Validated Audit Process”の略。EICC行動規範に対する第三者監査のこと。

※3 ロームと国内関係会社、ROHM Korea Corporationは統合システムによる第三者認証を取得。海外グループ会社はISO14001規格に基づいた自己宣言による環境マネジメントシステムを構築。

## 2015年度 海外6生産拠点での EICC監査結果

ロームグループでは「経営品質」を高めるため、2013年度よりCSR監査で最も厳しいとされるEICC監査を自主的に受審しています。

2015年度は海外主要生産6拠点でEICC 監査を受審し、結果として監査スコア

200点満点中、平均197.8点という高い水準で監査を終えることができ、監査が完了した拠点には証明書を発行していただきました。

2016年度は国内拠点でEICC監査を受審予定です。

2015年度EICC監査  
平均監査スコア

197.8点  
/200点満点



海外の生産拠点でのEICC監査



EICC監査が完了した際に発行される証明書



## 人権/ 労働慣行

ロームグループはバリューチェーン全体で  
人権尊重の徹底と労働慣行への  
配慮を推進しています。



### グローバルレベルでの 人財交流推進により 社員の成長を支援



ロームでは、若手社員を海外関係会社に短期派遣する海外トレーニー制度を2012年度から開始しています。現地マネージャーのもとで実務経験を積むことで、将来、海外と連携して業務を行うために必要な国際的な感覚を早期に身につけることが目的です。

また、海外現地法人の社員を一定期間実務研修生として本社に受け入れる制度も活発に行っており、2015年度は研究・開発・営業職を中心に、中国・韓国・フィリピンからの受け入れを行いました。帰国後は

現地法人の将来を担う人財に成長し、日本と現地をつなぐインターフェースとしての活躍を期待しています。



現地社員と一緒に業務に臨む若手社員



### Voice 海外トレーニー制度 出向者と受け入れ拠点の担当者

海外トレーニー制度に応募して、エンジニアとしてアメリカの開発拠点に出向しました。考え方や習慣が異なるメンバーと信頼関係を構築するには、積極的なコミュニケーションと、自発的な行動がいかに大切かを学びました。今後もグローバルな視野を持ち、国をまたいで幅広く活躍できる人財を目指します。

[出向者]  
ローム株式会社  
モジュール生産本部 センサ商品開発部  
先行エレメント開発課

里見 剛

この取り組みは、相互理解が深まる有意義な制度であると同時に、技術や知識を高めあう非常に素晴らしい制度です。経験者が増えることでグループ間での交流がこれまでよりさらに円滑になり、新たな価値をもたらすであろうことを実感しています。

[受け入れ拠点]  
ROHM Semiconductor U.S.A., LLC, US Design Center  
Systems & Applications, Senior Director

Satya Dixit



組織統治



人権/労働慣行



環境



公正な  
事業慣行



消費者課題  
(お客様への対応)



コミュニティへの  
参画および発展

## 企業価値向上を目指した 社員の人権と 多様性(ダイバーシティ)の尊重

ロームグループは、国際労働機関(ILO)による「労働における基本原則および権利」を尊重しています。グループの規範として、「労働方針」のなかで「人権の尊重、差別的な取り扱いの禁止」「雇用の自主性」「児童労働の禁止」「結社の自由」などを定め、社員一人ひとりの人間性と個性を尊重し、働きやすい職場環境を構築することを宣言しています。

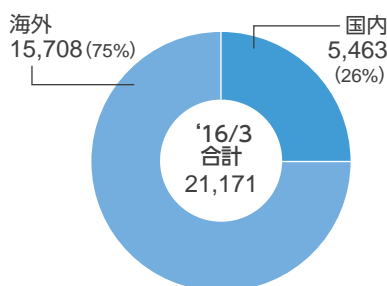
また、グローバルに事業を拡大する中、国籍や性別、年齢などにとらわれることなく多様な人財を活かしていくことが重要だ

と考えています。例えばロームでは、結婚、妊娠、出産、育児、介護などのライフイベントを迎えても継続して就業できるよう制度の整備をはかっており、2015年度の出産・育児休暇を取得した社員の定着率<sup>(\*)</sup>は97%となっています。

(\*)定着率…育児休暇から復職した後、2カ月が経過しても在籍している従業員の総数 / 前の報告期間中、育児休暇から復職した従業員の総数×100

ロームグループ労働方針  
<http://www.rohm.co.jp/web/japan/csr1/csr-laborsystem>

### 国内外社員数(人)



### ロームグループの 拠点がある国の数



## 社員が安全に働ける 会社を目指して

ロームでは、中央安全衛生委員会のもと、労働災害発件数ゼロを目標として、「リスクアセスメント」や「社内パトロール」を実施しています。その結果、2015年度まで21年間連続で休業災害ゼロを達成しています。また、グループでも同様の活動を進めています。



社内パトロール

## 20年ぶりに復活！ 従業員組合共催イベント 「ローム・フェスタ」開催

社員同士の交流をさらに深めることを目的に、20年前まで毎年開催していた夏祭りを「ローム・フェスタ2015」として復活開催しました。社員とそのご家族、OBの合わせて3,000名を超える方にクイズ大会や屋台などを楽しんでいただきました。



ロームフェスタ2015クイズ大会



# 環境

ロームグループでは、環境方針を軸に、地球環境に配慮したさまざまな活動を実施しています。



## グループで連携した環境マネジメントシステムの構築



ロームグループでは、環境の国際規格ISO14001を基本とした共通の環境マネジメントシステムを展開し、環境負荷低減に取り組んでいます。

「統括内部環境監査」では、ロームの監査員がグループ各社における環境管理システムの有効性や関連法の遵守状況を確認し、システムの継続的な改善につなげています。

また2015年度は、さらなるレベルアップをはかり、拠点間による相互監査として「統括内部環境監査クロスチェック」を国内外で実施するとともに、世界各拠点の環境担当

が集まる「グローバル環境連絡会議」を開催し、最新の環境規制などの動向やグループ内における先進的な取り組みを共有しました。



統括内部環境監査クロスチェックの様子

Voice

### 統括内部環境監査クロスチェック 実施担当者

2015年11月、私たち中国・大連の生産拠点と天津の拠点は、統括内部環境監査クロスチェックを実施しました。

クロスチェックは、環境マネジメントシステムの運用や現場における管理状況を互いに確認し、先進的な取り組みを共有することを目的としています。今回は、より安全な薬品保管方法や、環境目標達成に向けた管理手法などを現場で確認する

ことができ、非常に有益でした。

この経験を通じてさらに環境に関する知識やスキルを高め、グループの環境管理システムをより向上させていけるよう取り組みを継続していきます。

ROHM Electronics Dalian Co., Ltd.  
管理部 環境管理課

姜 莉斌







組織統治



人権/労働慣行



環境



公正な  
事業慣行



消費者課題  
(お客様への対応)



コミュニティへの  
参画および発展

## バリューチェーン全体でCO<sub>2</sub>およびその他温室効果ガス排出量を削減

2015年にCOP21<sup>(\*)</sup>が開催され、世界規模の地球温暖化・気候変動対策が求められるなか、ロームグループでは、設備の使用電力、オフィスのエネルギーなどの見える化を進めムダなエネルギーを削減するとともに、CO<sub>2</sub>やそれを大幅に上回る温室効果があるPFCガス類の排出量の削減に積極的に取り組んでいます。

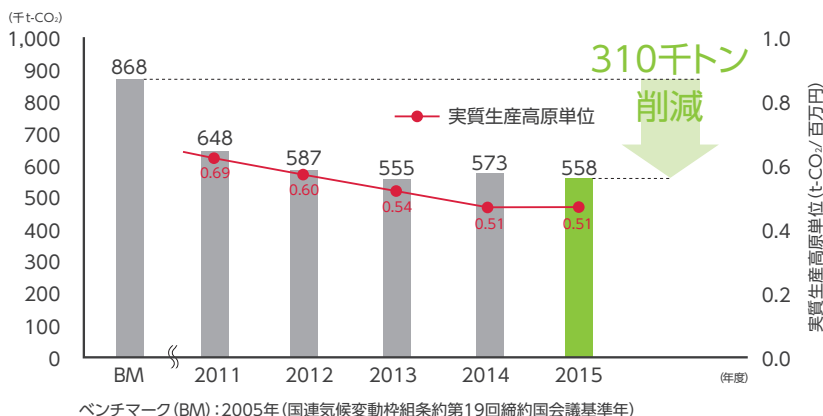
また、すべての事業活動から排出される

CO<sub>2</sub>排出量の低減に取り組むため、自社の算定範囲であるスコープ1、2だけでなく、バリューチェーン全体のCO<sub>2</sub>排出量であるスコープ3まで拡大し、算定しています。

<sup>(\*)</sup>COP21…国連気候変動枠組条約第21回締約国会議。2015年11月にフランス パリで開催され、2020年以降の温暖化対策の国際枠組みが採択された。

環境に関する詳細情報  
<http://www.rohm.co.jp/web/japan/environment>

### エネルギー消費によるCO<sub>2</sub>排出量推移

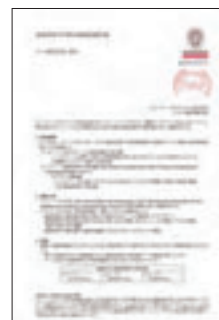


## 外部評価について

環境負荷データに関して、より透明性、信頼性の高い形で社会に情報公開するため、ビューローベリタスジャパン株式会社による第三者検証を受審しました。

また、2012年度よりCDP 気候変動に参画して情報公開に努め、2015年度はトップクラスの評価を得ることができました。

さらに、2015年度よりCDP Waterにも参画しています。(P.8をご参照ください。)



検証報告書

## 海外販売拠点の社員に対し環境教育を実施

ロームグループではお客様に安心して製品を使用いただくため、環境負荷物質の管理に継続して取り組んでいます。

海外のお客様の窓口となる販売拠点では、社員の環境に関する知識向上を目的とし、環境負荷物質管理の仕組みやお取引先様との連携の重要性について教育しています。



タイの販売拠点での教育風景



## 公正な 事業慣行

ロームグループはバリューチェーン全体を俯瞰し、グローバルで公正な事業の展開に努めています。



### バリューチェーンにおける 社会的責任の推進



ロームグループでは、お取引先様との信頼と相互繁栄を築き強固なサプライチェーンを構築することを目指し、お取引先様のCSRおよびCSR調達の手助けになるよう、さまざまな活動を実施しています。

国内外でお取引先様の拠点を訪問し、CSRの取り組みを確認する「CSR調達監査」は、2014年度は国内外で15社、2015年度には28社で実施しました。2016年度も27社での実施を予定しています。

また、2015年12月には、お取引先様102社をお招きし「CSR調達報告会」を開催しました。これは2013年の「CSR調達推進

説明会」に続く2回目の開催となります。ロームグループの取り組みと今後の課題について説明するとともに、外部講師を招き、CSRの最新情報を共有しました。



お取引先様へのCSR調達監査

Voice

### CSR調達監査を受審いただいたお取引先様

2015年、ロームグループのCSR調達監査を受審しました。私たちは物流においてロームグループの事業に協力しておりますが、今回の監査を通じて、社員目線のCSRの大切さに気付くことができました。

例えば、社員の心身の健康について、これまで社内にはなかった医務室の必要性を感じ、監査後に社内でも検討した結果、看護師が常勤する医務室を設置しました。

緊急時の応急処置や、月に一度の医師による診察、無料の予防接種など、これまで以上に社員に対して価値のある活動ができたと感じています。

HANKYU HANSHIN EXPRESS PHILIPPINES, INC.  
IT Manager/ QMR

Olen Francia 様





組織統治



人権/労働慣行



環境



公正な  
事業慣行



消費者課題  
(お客様への対応)



コミュニティへの  
参画および発展

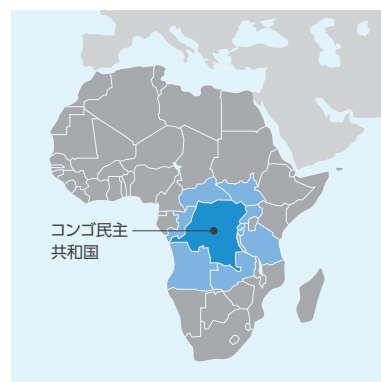
## 紛争鉱物不使用へ向けた 対応(コンフリクト・フリー)

2010年7月に米国金融規制改革法が成立し、その後、2012年8月に米国証券取引委員会(SEC)が最終的に規則として採択しました。米国の証券取引所に上場している企業は、コンゴ民主共和国およびその周辺地域で産出され、武装勢力や反政府勢力の資金源となっている紛争鉱物(すず、タンタル、タングステン、金:通称3TG)の使用状況に関する調査・報告が義務付けられています。

ロームグループではお客様に安心してローム製品を使用していただけよう、製品単位でコンフリクト・フリーを目指し、CSR委員会の下部組織として社内横断型

のワーキング・グループを組織してデューデリジェンスを推進しています。

### 紛争鉱物の対象となっている地域



## コンプライアンスの徹底

ロームグループでは行動指針や倫理方針に基づき、教育などを通じてコンプライアンスの徹底をはかっています。

また、各拠点では通報窓口であるコンプライアンス・ホットラインを設置しています。さらに、国内外の主要生産拠点では、お取引先様向けのコンプライアンス・ホットラインを設置し運用をしています。

2015年度はさらなる透明性をはかるため、国内グループにおいて外部の法律事務所に窓口を設置しました。

ロームグループ行動指針  
<http://www.rohm.co.jp/web/japan/rohm-group-business-conduct-guidelines>

ロームグループ倫理方針  
<http://www.rohm.co.jp/web/japan/csr1/csr-ethics>

お取引先様向けコンプライアンス・ホットライン  
[http://micro.rohm.com/ssl/jp/contact/compliance/input\\_s.php](http://micro.rohm.com/ssl/jp/contact/compliance/input_s.php)



事業活動における倫理上の基本的ルールを示した行動指針

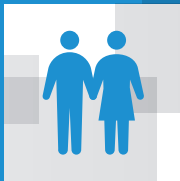
## 災害時の備えとリスク管理・事業継続マネジメント(BCM)

CSR委員会の下部組織であるリスク管理・BCM委員会は、グループのさまざまなリスクについてマップ化し年4回見直しをしています。

リスクのうち、極めて重大なものとして「災害による生産拠点などの操業停止や減産がお客様や社会全体に及ぼす悪影響」を想定しており、BCMと対応計画の作成、訓練を実施しています。



タイの生産拠点における洪水対策訓練

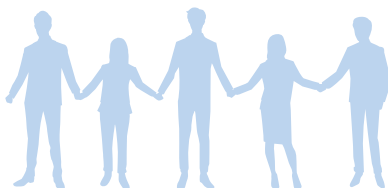


## 消費者課題 (お客様への対応)

ロームグループは「品質第一」を追求するとともに、社会的課題を解決する製品を供給することで、お客様の期待にこたえ、社会の発展に貢献することを使命として事業を展開しています。



グループの力を結集し、  
お客様や消費者、  
さらには社会の  
課題解決に取り組みます



2015年7月、アイルランドにある POWERVATION Ltd.(現 ROHM POWERVATION Ltd.)がロームグループの仲間として加わりました。

ROHM POWERVATION社はデジタル電源制御LSIの開発と販売を行うファブレス半導体企業です。

ロームのアナログ技術とROHM

POWERVATION社のデジタル技術を合わせることで、電源IC市場などにロームの製品を多く送り込み、電力制御の効率化などにおける省エネルギー化など、より広く社会に貢献する製品づくりが可能になります。

ロームグループではこれからもグループ会社のシナジーによってお客様や消費者、社会の課題解決に取り組んでいきます。



ROHM POWERVATION社とロームの社員



Voice

### ROHM POWERVATION Ltd. CEO

私たちは、デジタル電源制御LSIにおいて世界をリードする技術と製品に自信と誇りを持っています。ロームグループの一員として、製品開発をより一層加速させ、デジタル電源制御技術を集約したソリューションを展開していきます。

デジタル電源制御の大きなメリットと

して、データセンターなどの市場における、お客様の製品の電力効率化が見込めます。これにより、私たちが暮らす環境や社会における課題の解決に貢献していきます。

ROHM POWERVATION Ltd. CEO

Mike McAuliffe



組織統治



人権/労働慣行



環境



公正な  
事業慣行



消費者課題  
(お客様への対応)



コミュニティへの  
参画および発展

## QA/デザインセンターを通じたお客様への迅速かつ的確な対応

ロームグループでは、常にお客様に最も近い所で品質対応を行えるよう国内・海外10カ所に「QA(Quality Assurance:品質保証)センター」と名づけた各種解析装置を備えた製品解析センターを設置しています。

技術に精通したスタッフが地域に密着した対応を行うとともに、過去の品質問題をあらゆる角度から細かく分析することで問題の真因を明らかにし、二度と同じ品質問題を

起こさないように対策を講じています。

また、製品を開発・設計するにあたって、お客様の要望をしっかりと把握し、要望に合った製品を迅速に提供するため、世界各地に開発拠点となる「デザインセンター」を設置しています。開発・設計者も現地化することで、より現地のニーズに合わせた新製品を生み出す「真のグローバル化」を推し進めています。



インドデザインセンター

### インドデザインセンター

私たちインドデザインセンターでは、現地のお客様のそばでのタイムリーなサポートはもちろんのこと、ご要望を的確に理解したうえで、本社の開発チームに迅速かつ正確にフィードバックしています。また、現地における開発体制も構築することで、より良い仕組みづくりに努めています。

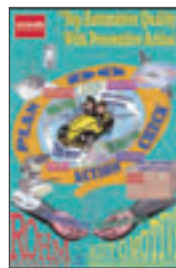
ROHM Semiconductor India Pvt. Ltd.  
India Design Center - Head

Britto Edward Victor

## 品質第一の追求

ロームグループでは、全社員が企業目的にある「品質第一」を追求しています。

2015年度は経営層を主要メンバーとする品質委員会を組織し、品質改善のための意思決定と着実な改善を行うためのレビューを行う体制を構築するなど、より高い品質保証体制の実現をはかっています。



11月の品質月間に海外の社員が描いた啓発ポスター

## 秘密情報保護に向けた取り組み

ロームでは情報セキュリティマネジメントシステムの認証である、ISO/IEC27001を取得しており、ステークホルダーの皆様にとってのビジネスリスクを低減するためのセキュリティマネジメントシステムを確立しています。



JQA-IM1197

ISO/IEC27001登録マーク



## コミュニティへの 参画および発展

ロームグループでは「教育」「文化・交流」「環境・地域貢献」の3つを軸に社会貢献活動をグローバルに展開し、社会の持続的な発展に貢献しています。



### 未来のエンジニアを グローバルに支援



ロームグループでは未来のエンジニアを支援するために、さまざまな活動に協力しています。

ロームが2013年から参加している「Japan Super Science Fair(JSSF)」は、立命館高校が主催する世界21カ国約200名の理系高校生が京都で科学について交流する取り組みです。

ローム社員による2日間にわたるワークショップでは、電子回路の概要を説明した後、実際に電子部品を使用して自分だけの回路を作成し、その機能を使ってどのように社会に貢献できるかを考え発表して

もらいます。この経験を通じて将来社会に価値を生み出すことができるエンジニアが一人でも多く生まれることを期待しています。



ロームで開催されたJSSFのワークショップ

Voice

### JSSF2015 に参加したカナダの高校生

JSSFでのロームのワークショップは、とても貴重な体験でした。

実際に電子回路を組み立て、実生活でそれがどのように役立つのかを考えることは非常に刺激となりました。これまで電子回路に触れる機会がなかったため、当初は回路が思ったように動作せず苦労

をしましたが、ロームの皆さんと一緒に課題を解決し、最終的には私だけでなく参加した全員が各々の回路を設計することができ、とても感動しました！

Fort Richmond 高等学校  
Colin Marsch さん





組織統治



人権/労働慣行



環境

公正な  
事業慣行消費者課題  
(お客様への対応)コミュニティへの  
参画および発展

## 教育

### ロームグループの技術を活かし、豊かな人間性と知性を備えた次世代の人財育成に貢献する。

#### モノづくりの楽しさを より多くの子どもたちに 知ってもらうために

近年、学生のモノづくりの体験が少なくなり興味や関心が希薄になるなか、ロームグループでは小学生から大学生までの学生に向けたモノづくり授業を展開しています。

ロームが実施している小学生向けの授業では、京都市教育委員会と協力し、ロームの創業製品である抵抗器と三色に光るLEDを組み合わせた工作を通じて、光の

三原色やLEDの省エネ効果を学んでもらうとともに、モノづくりの楽しさを体験するきっかけをつくっています。

また、国内外のロームグループ各拠点でも同様の活動を実施しており、マレーシアの生産拠点では、現地の工業専門学校と協働で、はんだ付けなどの授業を実施し、モノづくりの面白さを伝えています。

#### 2015年度ロームで実施した モノづくり授業を受けた学生の数

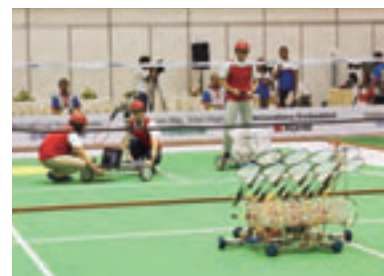
# 1,900名以上



小学生向けのモノづくり授業

#### NHK学生ロボコン・ABU (アジア太平洋放送連合) ロボコンへの協賛

ロームグループでは若きエンジニアを応援するために、さまざまなイベントに協賛しています。「ABUアジア太平洋ロボコン2015インドネシア・ジョグジャカルタ大会」もその一つであり、18カ国の代表が自作のロボットによるバドミントンでポイントを奪いあいました。



自作ロボットによるバドミントンで競いあう学生

#### 技術情報サイト 「Device Plus」にて モノづくりに関する さまざまな記事を公開

モノづくりの未来を担う学生や若きエンジニアに向けた技術情報サイト「Device Plus」では、ロボコンの試合レポートや、電子工作のハウツーなどを公開・発信しています。2015年11月には日本語版サイトが月間訪問者数10万人超を達成しました。



2015年9月より英語版も開設しています

Device Plus <http://deviceplus.jp/>



## 文化・交流

社内外で文化的交流を積極的に行うことにより、地域社会と社内の活性化に努める。

### 公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

ローム ミュージック ファンデーション  
が支援してきた音楽家  
「ローム ミュージック フレンズ」

延べ **4,543** 名

継続的に音楽文化の普及・発展に寄与することを目的に、1991年に「財団法人ローム ミュージック ファンデーション」を設立しました。2015年度は40名の奨学生を支援し、奨学生が出演する「スカラシップコンサート」や「フレンズコンサート」を開催しました。また、国際交流と若手音楽家育成を目的とした「京都・国際音楽学生フェスティバル」の開催や、プロの音楽家を育成するための「音楽セミナー」、音楽に関する公演・研究への助成なども

行っています。

(2015年度事業費:8億7,284万円)

2015年には公益社団法人企業メセナ協議会が芸術・文化を通じた社会創造の観点で特に優れた活動を顕彰する「メセナアワード2015」にて、1993年から継続して実施している「京都・国際音楽学生フェスティバル」が優秀賞「音でつなぐ世界賞」を受賞しました。

 ロームミュージックファンデーション ホームページ  
<http://www.rohm.co.jp/rmf>



ロームが協賛する京都・国際音楽学生フェスティバル

### ローム楽しく クラシックシリーズ

クラシック音楽に気軽に触れ、その素晴らしさを実感してもらうことを目的に、2014年より、社員とその家族を対象としたクラシック音楽セミナー「ローム楽しくクラシックシリーズ」を京都市交響楽団や

日本フィルハーモニー交響楽団と協同で開催しています。

これまでに延べ1,100人以上の社員とその家族にクラシック音楽の素晴らしさに触れていただきました。

### 会社見学を通じた ステークホルダーの 皆様との交流

ロームグループの国内外の拠点では地域の住民や学生、社員とその家族に対し、定期的に会社見学会を開催し親交を深めています。

各拠点の取り組みについてわかりやすく説明し、より理解を深めていただくことで、ステークホルダーの皆様が親しまれる会社を目指していきます。



海外の生産拠点における工場見学





組織統治



人権/労働慣行



環境



公正な  
事業慣行



消費者課題  
(お客様への対応)



コミュニティへの  
参画および発展



## 環境・ 地域貢献

企業市民として、環境の保全を心がけ、  
自主的かつ積極的に取り組める活動を行う。

### ロームの製品や取り組みを 通じて地域の皆様に 笑顔にする活動

ロームでは2015年11月から12月ま  
での約1カ月間、本社でイルミネーションを  
実施しました。

電力は環境に配慮して、自然エネルギー  
により発電された電力を使用する「グリーン  
電力」と、京都版CO<sub>2</sub>排出量取引制度で  
ある京都独自クレジット(京-VER)を利用し  
て、地域社会に協力するとともに温室効果  
ガスの削減をはかっています。

また、2015年10月から11月まで、文化財  
愛護の普及啓発事業である「第51回 京都  
非公開文化財特別公開」の一環として上賀茂  
神社・下鴨神社で開催された夜間ライト  
アップに協力しました。

会場では神楽の奉納が行われ、その舞  
台照明の切り替えに、電池、配線、メンテ  
ナンス不要なロームのEnOcean無線ス  
イッチが使用されました。



ローム周辺イルミネーション



ロームの製品が活用された上賀茂神社のライトアップ

### 地域に向けた防災・減災\* ワークショップの開催

タイでは2011年の大洪水以降、防災・  
減災知識の必要性が高まっています。  
2015年は、地域の小学生約200名に対し、  
空のペットボトルで作るライフジャケットや、  
ストローで作るホイッスル、非常時用バッグ  
の作り方などを楽しみながら学んでいた  
できました。

\*減災…災害発生時の被害を想定し、それを最小化  
するための取り組み



防災・減災ワークショップ

### 地域における環境保護・ 衛生推進活動

フィリピンの生産拠点では、地域の環境  
保護・衛生推進を目的としてさまざまな  
活動を実施しています。

2015年度は、地域の小学校にて環境  
啓発のためのポスターコンクールを開催  
し、優秀事例を表彰しました。また、近隣の  
小学校を回り、正しい手洗いの仕方を伝  
えるとともに、ハンドソープの寄付を行  
い、地域におけるデング熱などの病気蔓  
延の防止に努めています。



小学生を対象としたポスターコンクール



水と緑が溢れる京都岡崎地域に位置するロームシアター京都

ISO26000中核主題と活動

文化の発信地「ロームシアター京都」が華々しくオープン

## ロームシアター 京都

伝統文化を守りつつ  
新たな可能性を生み出す  
サステナブルな場所へ

長年にわたり音楽芸術を支援してきたロームは、京都市民の皆様に関心を持ってきた「京都会館」の再整備にあたり、50年間のネーミングライツという形で協力し、2016年1月10日、「ロームシアター京都」がオープンしました。

ロームシアター京都がある京都岡崎地域は、歴史的な神社や美術館がある京都屈指の文化エリアです。今後はロームシアター京都で世界的なコンサートや公演が催される予定であり、同施設が日本を代表する文化の殿堂として広く愛されることを願っています。



野外のイベント空間。隣接する公園と一体となった憩いの場「ローム・スクエア」 ©小川重雄



舞台と客席の距離が近く一体感が得られる716席の「サウスホール」 ©小川重雄



世界的なオペラ、バレエなどの総合舞台芸術が公演可能な2,005席の「メインホール」 ©小川重雄



組織統治



人権/労働慣行



環境



公正な  
事業慣行



消費者課題  
(お客様への対応)



コミュニティへの  
参画および発展

## ロームシアター京都を通じて 音楽の素晴らしさを 伝える活動

ロームシアター京都での  
「子どものためのオペラ」に  
招待された京都の小学生

約 **3,000** 名

### 音楽の素晴らしさを次世代に伝える 「子どものためのオペラ」 ローム クラシック スペシャル

ロームとローム ミュージック ファンデーションは、世界的指揮者である小澤征爾氏が行う若手音楽家育成プロジェクト「小澤征爾音楽塾」の支援を継続的に行っています。

2016年2月には、ロームシアター京都で、「子どものためのオペラ」として喜歌劇

「こうもり」の第2幕が披露され、招待された京都の小学生がその豪華なステージを楽しみました。

また、オペラ解説や、楽器紹介のコーナーもあり、工夫を凝らした各楽器の演奏に小学生たちは身を乗り出しながら聴き入っていました。

ロームシアター京都でのこの活動が、子どもたちに音楽の素晴らしさを感じてもらい興味を持つきっかけになることを願っています。



「子どものためのオペラ」の様子 ©大窪道治

### 地域に音楽が溢れるイベント 「ローム ミュージック フェスティバル」

ロームとローム ミュージック ファンデーションは、若い音楽家の学ぶ環境の充実に取り組んでおり、そのなかで関わった「ローム ミュージック フレンズ」は延べ4,543名を超え、その多くの方々が現在プロの音楽家として世界を舞台に活躍しています。

2016年4月23、24日には、ロームシアター京都を全館貸し切るとともに野外ステージを設置し、「ローム ミュージック フレンズ」や地域の学生による演奏を楽しんでいただく音楽の祭典「ローム ミュージック フェスティバル」を初めて開催しました。期間中は地域一帯に音楽が溢れ、多くの方に楽しんでいただくことができました。

ロームシアター京都特設サイト  
<http://www.rohm.co.jp/web/japan/theatre>

「ローム ミュージック フェスティバル」 ©佐々木卓男






# CSRの目標・計画と実績およびGRI-G4の指標

ロームグループではISO26000に基づいたグローバルなCSRマネジメントを目指しています。そのためにISO26000に沿ってロームグループの「CSR重点課題」を特定し、取り組みテーマ、目標・計画を設定しています。また、GRI-G4のカテゴリに基づき指標を開示しています。

CSR重点課題	ISO26000 中核主題	取り組みテーマ	2015年度目標・計画	2015年度実績	評価		
1. 革新的な製品による社会的課題の解決		お客様から求められるニーズを的確に把握し、世界をリードする製品を開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>CSVについて事例集を作成しグループ各社に水平展開する。</li> <li>階層別教育などを通じて社会的課題と自らの業務との関連を明確にし、CSVの重要性の理解度を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロームグループのCSRのテーマとなる3つのECOを特定し、国内外すべての拠点にビデオ配信で水平展開。</li> <li>また、国内外関係会社での教育、階層別教育も実施。</li> </ul>	★★★		
	2. 高品質な製品の安定供給	消費者課題 (お客様への対応)	製品品質の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>新製品の設計品質のさらなる向上と品質問題の徹底した分析で、品質改善活動を継続して推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新製品の設計レビュー体制の見直しによる体制強化を実施。</li> <li>会社全体の品質状況を見える化し、品質改善のPDCAを促進する体制を構築。</li> </ul>	★★★	
安定供給のためのBCM(事業継続マネジメント)体制の維持・向上			<ul style="list-style-type: none"> <li>主要生産拠点が抱えるリスクの再調査を実施する。</li> <li>BCP(事業継続計画)の見直しを行い、教育訓練によって浸透をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要リスクの洗い出しと是正対応を実施。</li> <li>BCPの見直しを継続。</li> </ul>	★★★		
3. 国際社会に貢献できるグローバル人財の育成	人権/ 労働慣行	ダイバーシティの推進/ 働きやすい職場環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な価値観に合わせた働き方を実現する人事コース制度の整備。</li> <li>社員の「ライフ」全般を支援するセミナーを開催、福利厚生サービスの拡充。</li> <li>組織の壁を越えた社員間の活発な交流を促進する施策の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育をテーマとしたセミナーを開催、食と健康に興味を持てるような取り組みを実施。</li> <li>一体感を醸成するきっかけとなる社員とその家族も含めた全社イベントを実行。</li> </ul>	★★★		
		グローバルビジネスを担う人財の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代リーダー研修の選抜対象を拡大する。</li> <li>グローバル共通の等級制度の展開による人財の発掘・育成を進める。</li> <li>海外での採用活動の拡大を通じたグローバル人財の発掘・育成を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職を対象にした研修を新規導入し、役職・グレードに紐付いた人財育成体系を確立。</li> <li>役職ごとに選抜型の研修を実施し、リーダー育成プログラムを拡充した。</li> </ul>	★★★		
4. バリューチェーンにおける人権尊重の徹底と労働慣行などへの配慮	組織統治	CSRマネジメント体制の維持・向上	CSR体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外6生産拠点にてEICC監査を受審する。</li> <li>EICC監査に対して監査マニュアルを策定し、グループの底上げをはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外6生産拠点においてEICC監査を受審し、3拠点において指摘ゼロを達成。</li> <li>EICC監査マニュアルを作成し、関係会社へ展開をはかった。</li> </ul>	★★★	
			労働・倫理マネジメントシステムの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きロームグループにおいて労働・倫理のマネジメントシステムを展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マネジメントシステムを継続して管理。</li> </ul>	★★★	
	人権/ 労働慣行	人権の尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外主要6生産拠点にてEICC監査を受審し人権の尊重について更なる強化をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外主要6生産拠点において、労働・倫理マネジメントシステムを確立。EICC監査も受審し、継続的な改善を実施。</li> </ul>	★★★		
		安全で働きやすい職場環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働災害発生ゼロに向けて国内・海外主要生産拠点においてOHSAS18001認証を取得する。</li> <li>新人事・給与制度を全社員へ展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内関係会社(R/アポロ、R/ワコー、R/ロジステック、ラピス、ラピス宮崎、ラピス宮城)において第三者認証取得。</li> <li>海外関係会社(KOREA、REDA、RIST、REPI)において第三者認証取得。</li> <li>従業員組合との協議を経て、すべての正社員の人事制度を変更。</li> </ul>	★★★		

2016年度目標・計画	G4のカテゴリ	報告するG4の指標 (2015年度実績)	指標の範囲
・CSVワークショップを開催し、生産、開発、営業、管理の切り口からロームのCSV事例を作成し、社員との共有をはかる。	製品およびサービス G4-EN27	開発製品に占める環境配慮型製品の開発割合:88%	ローム
・未然防止に重きを置いた仕事のやり方で製品、人、行動の全体品質を向上させる。	コンプライアンス G4-PR9	PL法の違反に対する件数・罰金:なし 環境法規則の違反に対する件数・罰金:なし	ローム グループ
・BCPの見直しを行い、教育訓練によって浸透をはかる。	間接的な経済影響 G4-EC8	極めて重要なリスクとして「災害による生産拠点などの 操業停止や減産がお客様や社会全体に及ぼす悪影響」を 想定。	—
・女性活躍推進に向けた制度の整備や研修の実施。	雇用 G4-LA3	出産・育児休暇後の復職・定着率:復職率88%、 定着率97%	ローム
・2015年度に確立した人育成体系を非管理職層に拡大する。 ・過去の選抜型の研修経験者を中心に人財を厳選した長期育成 プログラムを検討する。	多様性と機会均等 G4-LA12	外国人従業員比率:1.66%	ローム
・国内主要8生産拠点にてEICC監査を受審する。	—	国際的な規格に基づくマネジメントシステムについては P.20に記載。	ローム
・適正なマネジメントシステムの管理を継続する。	—	—	—
・グループ会社に労働・倫理マネジメントシステムを構築する。	サプライヤーの 人権評価 G4-HR10、11	2015年度CSR調達セルフアセスメント結果(項目:人権) A評価:104社、A-評価:29社、B評価:17社、C評価:0社、 D評価:0社	ローム グループの お取引先様
	保安慣行 G4-HR7	業務関連の人権方針や手順について研修を受けた 保安要員の比率:100%	国内生産拠点
・国内海外主要生産拠点においてクロスチェックを実施する。	労働安全衛生 G4-LA6、7	<ローム[女性/男性]> 傷害の種類:切傷・火傷、傷害率:[0/0.00000075]、 業務上疾病率:[0/0]、休業日数率:[0/0.00009]、 欠勤率:[0.0103/0.0083]、業務上の死亡者数:[0/0] <請負会社[男性のみ]> 傷害の種類:切傷、傷害率:[0.00000175]、 業務上疾病率:[0]、休業日数率:[0]、欠勤率:[0.0063]、 業務上の死亡者数:[0] 有害性のある業務に携わっている労働者の有無: 有(対象者:435名)	ローム

評価基準 ★★★:目標・計画を達成 ★★:目標・計画と実績に軽微なずれが生じた ★:目標・計画と実績に大幅なずれが生じた

CSR重点課題	ISO26000 中核主題	取り組みテーマ	2015年度目標・計画	2015年度実績	評価
4. バリューチェーンにおける人権尊重の徹底と労働慣行などへの配慮	 公正な事業慣行	「ロームグループ行動指針」に基づいた公正な事業活動を推進	コンプライアンス体制の強化 ・階層別コンプライアンス研修を継続実施する。 ・社員向け「リーガルラーニング」を継続実施する。 ・CSR月間においてコンプライアンスの啓発活動を継続実施。	・新入社員から管理職において階層別コンプライアンス研修を実施。 ・リーガルガイドブックについて、CSR月間における啓発活動を展開。 ・労働と倫理に関する啓発活動において、イントラネット上で理解度確認を実施。	★★★
		公正な競争・取引	・全グループ会社でCSR調達監査・再監査の伸張。 ・外注加工先様へのCSR調達活動開始。 ・紛争鉱物調査を継続。 ・阻害要因対策を行いながら取引基本契約締結率98%超を目標に継続。 ・CSR調達セルフアセスメント継続。 ・お取引先様へセルフアセスメント結果のフィードバック。	・ロームグループ全社でCSR調達監査を実施。 ・外注加工先様へのCSR調達監査実施。 ・100%CFIに向けて紛争鉱物調査継続。 ・CSR調達報告会開催(本社)。 ・CSR調達セルフアセスメント継続。 ・お取引先様へセルフアセスメント結果のフィードバック。	★★★
5. 地球環境に配慮した事業活動の推進	 環境	「2020年度に向けた中期目標」を軸とした施策の展開	拠点におけるCO <sub>2</sub> 対策 ・CO <sub>2</sub> 排出量を2015年度生産量に応じた予測値より1%削減する。 ・CO <sub>2</sub> 排出量原単位を2015年度に2014年度実績より1%削減する。 ・温室効果ガス(PFCs、SF6など)排出量を2015年度生産量に応じた予測値より1%削減する。	・CO <sub>2</sub> 排出量を2015年度生産量に応じた予測値より7.3%削減。 ・CO <sub>2</sub> 排出量原単位を2015年度に2014年度実績より0.2%増加。 ・温室効果ガス(PFCs、SF6など)排出量を2015年度生産量に応じた予測値より22.7%削減。	★★
		バリューチェーンを通じたCO <sub>2</sub> 対策	・スコープ3基準に準じた温室効果ガス運用モデルを策定し公開カテゴリを拡大する。 ・開発製品に占める環境配慮型製品の割合を2015年度に75%とする。	・スコープ3基準に準じた温室効果ガス運用モデルを策定し6カテゴリを公開(2014年度6カテゴリ公開)。 ・開発製品に占める環境配慮型製品の割合は88%。	★★
		環境汚染物質の削減	・PRTR対象物質取扱量原単位は、2014年度実績値を維持する。 ・VOC排出量を2015年度生産量に応じた予測値より1%削減する。	・PRTR対象物質取扱量原単位は、2014年度実績より12.7%削減。 ・VOC排出量を2015年度生産量に応じた予測値より15.7%削減。	★★★
		資源の有効活用	・海外連結で廃棄物排出量原単位は、2014年度実績値を維持する。 ・水の投入量を、2015年度生産量に応じた予測値より1%削減する。 ・国内連結でゼロエミッションを維持し、廃棄物排出量原単位の2014年度実績を維持する。	・海外連結で廃棄物排出量原単位は、2014年度実績より0.6%削減。 ・水の投入量を、2015年度生産量に応じた予測値より5.8%削減。 ・国内連結でゼロエミッションを維持し、廃棄物排出量原単位の2014年度実績より4.2%削減。	★★★
		グリーン調達ガイドラインに則った化学物質管理の徹底	・新ガイドラインを発行し、グループ全体での運用徹底をはかる。	・ロームグループCSR調達ガイドライン第二版発行。改訂版CSR調達セルフアセスメントの実施。	★★★
6. 事業を通じた地域コミュニティへの貢献	 コミュニティへの参画および発展	良き企業市民として社会の発展や健全化に貢献	音楽文化の普及・発展への貢献 ・音楽文化に関する支援を継続する。	・地元京都の京都市交響楽団演奏会ほか、多くのコンサートへの協賛を実施。 ・ローム ミュージック ファンデーション主催でロームが協賛した「京都・国際音楽学生フェスティバル」でメセナアワード2015優秀賞を受賞。 ・小澤征爾音楽塾(若い音楽家の育成プロジェクト)を支援、また同プロジェクトで小学生を対象とした「子どものためのオペラ」を支援。 ・公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションの事業を支援。	★★★
		広く社会のニーズに対応した適切な寄付や賛助活動	・社会のニーズをとらえた適時・適切な寄付・賛助活動を継続する。	・2015年度の寄付・協賛金額1億7,580万円。	★★★
		地域社会からの要請に応じた活動	・継続して地域社会への支援、産官学連携の場の提供に努める。 ・モノづくり教育のコンテンツを再考し、学生に興味のある教材を提供する。 ・地域に根差した社会貢献活動を展開する(積極的なボランティア事例など)。	・教育コンテンツを改良しつつ、小学生向けモノづくり授業・環境学習授業を実施。その他、高校生や大学生を対象に社員による講義を実施(総計1,900名以上)。 ・ありがと本活動を通じ、東日本大震災の復興を支援(2016年5月時点で計2万点以上を寄付)。	★★★

2016年度目標・計画	G4のカテゴリ	報告するG4の指標 (2015年度実績)	指標の範囲
<ul style="list-style-type: none"> <li>階層別コンプライアンス研修を継続実施する。</li> <li>行動指針の啓発を継続実施する。</li> </ul>	腐敗防止 G4-SO4	腐敗防止の方針を含む「ロームグループ行動指針」を7カ国語に翻訳し、海外を含む全グループ会社全社員に配布。階層別コンプライアンス研修において腐敗防止の方針を含む「ロームグループ行動指針」の啓発を実施(2015年度は、本社360名が受講)。コンプライアンス・ホットラインについては、26ページに記載。	ロームグループ
<ul style="list-style-type: none"> <li>全グループ会社でCSR調達監査・再監査の伸張。</li> <li>外注加工先様へのCSR調達活動を継続する。</li> <li>紛争鉱物調査を継続する。</li> <li>CSR調達セルフアセスメントを継続する。</li> <li>お取引先様へセルフアセスメント結果をフィードバックする。</li> <li>グループ会社でCSR調達報告会を開催する。</li> </ul>	サプライヤーの社会への影響評価 G4-SO9、10	2015年度CSR調達セルフアセスメント結果(項目:倫理/危機管理体制の構築) A評価:77社、A-評価:33社、B評価:28社、C評価:8社、D評価:4社	ロームグループのお取引先様
	サプライヤーの人権評価 G4-HR10、11	2015年度CSR調達セルフアセスメント結果(項目:人権) A評価:104社、A-評価:29社、B評価:17社、C評価:0社、D評価:0社	
	サプライヤーの労働慣行評価 G4-LA14、15	2015年度CSR調達セルフアセスメント結果(項目:労働慣行〔安全衛生〕) A評価:136社、A-評価:7社、B評価:6社、C評価:4社、D評価:0社	
<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量を2016年度生産量に応じた予測値より1%削減する。</li> <li>CO<sub>2</sub>排出量原単位を2016年度に2015年度実績より1%削減する。</li> <li>温室効果ガス(PFCs、SF6など)排出量を2016年度生産量に応じた予測値より1%削減する。</li> </ul>	大気への排出 G4-EN5、15、16、17、18、20、21	スコープ1 CO <sub>2</sub> 排出量:42,904 t-CO <sub>2</sub> スコープ2 CO <sub>2</sub> 排出量:515,535 t-CO <sub>2</sub> スコープ3 CO <sub>2</sub> 排出量:408,551 t-CO <sub>2</sub> (カテゴリ1,3,4,5,6,7) スコープ1,2排出量原単位:0.509(t-CO <sub>2</sub> /百万円) 2015年PFCガス排出量(GWP-t):95,879 t-CO <sub>2</sub>	ロームグループ
<ul style="list-style-type: none"> <li>スコープ3基準に準じた温室効果ガス運用モデルを策定し公開カテゴリを拡大する。</li> <li>開発製品に占める環境配慮型製品の割合を2016年度に80%とする。</li> </ul>	サプライヤーの環境評価 G4-EN32、33	2015年度CSR調達セルフアセスメント結果(環境) A評価:131社、A-評価:9社、B評価:4社、C評価:4社、D評価:1社	ロームグループのお取引先様
<ul style="list-style-type: none"> <li>PRTR対象物質取扱量原単位は、2015年度実績値を維持する。</li> <li>VOC排出量を2016年度生産量に応じた予測値より0.5%削減する。</li> </ul>	排水および廃棄物 G4-EN23	2015年国内廃棄物排出量:6,734t 2015年海外廃棄物排出量:5,652t	ロームグループ
<ul style="list-style-type: none"> <li>海外連結で廃棄物排出量原単位は、2015年度実績値を維持する。</li> <li>水の投入量を、2016年度生産量に応じた予測値より0.5%削減する。</li> <li>国内連結でゼロエミッションを維持する。</li> </ul>	水 G4-EN8	2015年総取水量:9,915km <sup>3</sup>	ロームグループ
	エネルギー G4-EN3	2015年度電力使用量:1,363,797MWh エネルギー消費によるCO <sub>2</sub> 排出量:558,419 t-CO <sub>2</sub>	ロームグループ
<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ全体での運用徹底をはかる。</li> </ul>	サプライヤーの環境評価 G4-EN32、33	2015年度CSR調達セルフアセスメント結果(環境) A評価:131社、A-評価:9社、B評価:4社、C評価:4社、D評価:1社	ロームグループのお取引先様
<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽文化に関する支援を継続する。</li> </ul>	地域コミュニティ G4-SO1	1960年4月の開館以来、50年以上にわたり京都の「文化の殿堂」として市民に愛され、世界に冠たる文化・交流ゾーンである、京都市左京区の岡崎地域に位置する貴重な文化財産である京都会馆を利用者のニーズにこたえるよう京都市が全面的な再整備を行うにあたり、2014年度に50年間(52億5千万円)の命名権取得を通じて支援。2016年1月10日にオープンし、オープニング事業などを支援。	ロームおよび地域の皆様
<ul style="list-style-type: none"> <li>社会のニーズをとらえた適時・適切な寄付・賛助活動を継続する。</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して地域社会への支援、産官学連携の場の提供に努める。</li> <li>モノづくり教育のコンテンツを再考し、学生に興味のある教材を提供する。</li> <li>地域に根差した社会貢献活動を展開する(積極的なボランティア事例など)。</li> </ul>		モノづくり授業や工場見学などの地域社会からの要請に対して取り組みを実施した割合:100%	ロームグループ

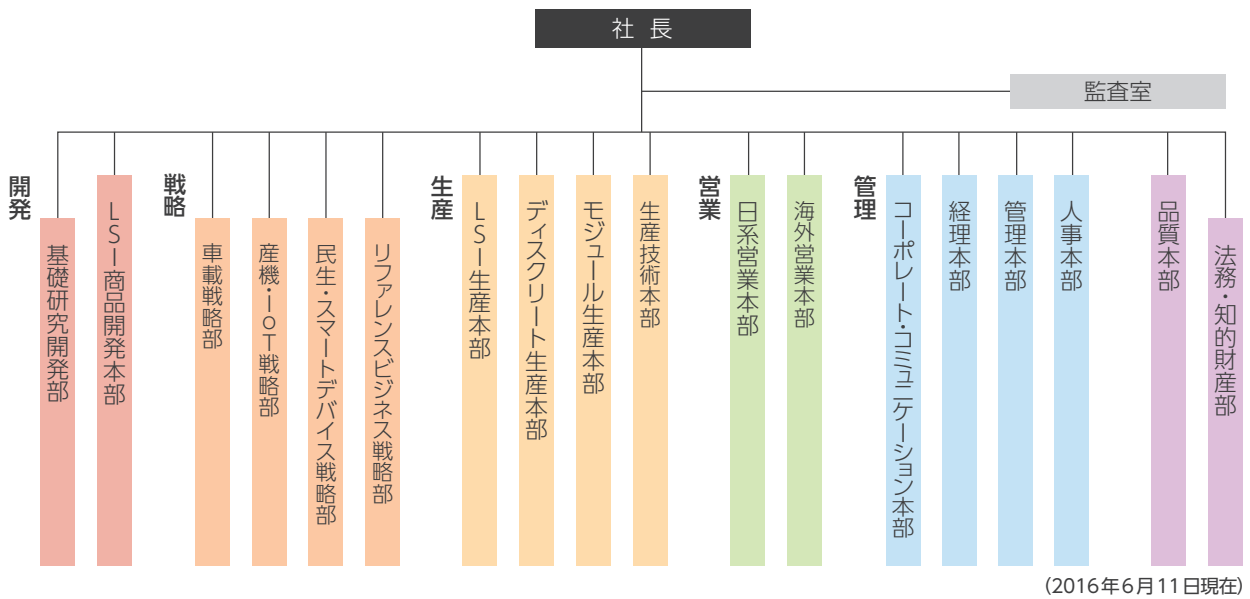
評価基準 ★★★:目標・計画を達成 ★★:目標・計画と実績に軽微なずれが生じた ★:目標・計画と実績に大幅なずれが生じた

# 会社情報

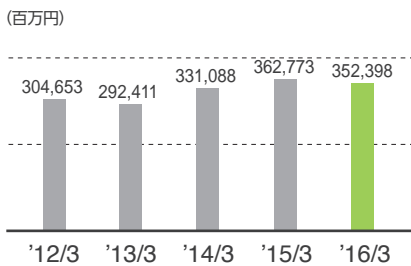
## 会社概要

商号	ローム株式会社 / ROHM Co., Ltd.	代表者	代表取締役社長 澤村 諭
本社所在地	〒615-8585 京都市右京区西院溝崎町21 TEL(075)311-2121 FAX(075)315-0172	資本金	86,969百万円(2016年3月31日現在)
設立年月日	1958(昭和33)年9月17日	売上高	連結 352,398百万円(2016年3月期)
		社員数	連結 21,171人(2016年3月31日現在)

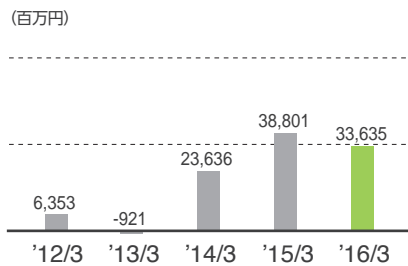
## 会社組織図



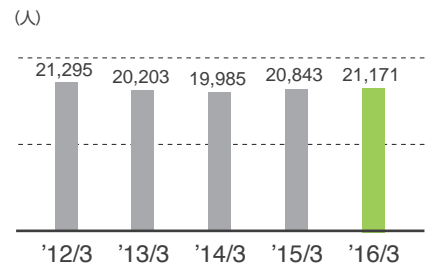
### 売上高



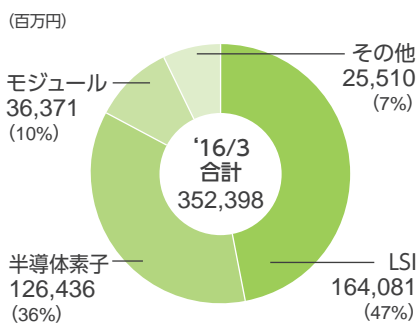
### 営業利益



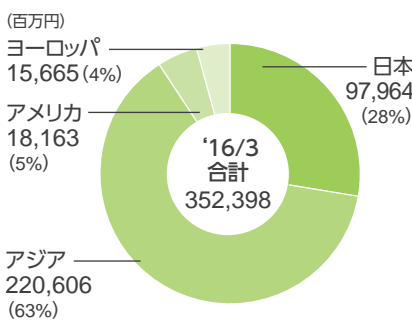
### 社員数



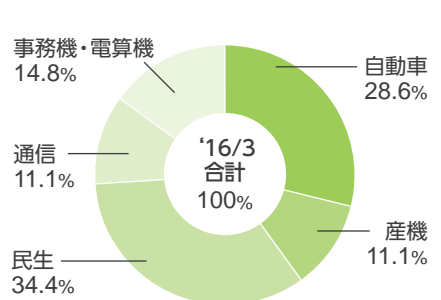
### 事業別売上高



### 地域別売上高



### 用途別売上構成比





## ロームグループ主要拠点

### 〈Japan〉

#### 営業拠点

##### 日系営業本部

京都	TEL:(075)365-1077	松本	TEL:(0263)34-8601
東京	TEL:(03)6280-0820	水戸	TEL:(029)300-0585
横浜	TEL:(045)476-2121	西東京	TEL:(042)648-7821
名古屋	TEL:(052)951-9311	仙台	TEL:(022)295-3011
福岡	TEL:(092)483-3496	高崎	TEL:(027)310-7111
宇都宮	TEL:(028)633-2271		

#### 開発拠点

京都テクノロジーセンター(本社)	TEL:(075)311-2121
京都テクノロジーセンター(京都駅前)	TEL:(075)365-1073
横浜テクノロジーセンター	TEL:(045)476-2131

#### 生産拠点

ローム株式会社	TEL:(075)311-2121
ローム浜松株式会社	TEL:(053)468-1000
ローム・フコー株式会社	TEL:(0865)67-0111
ローム・アポロ株式会社	TEL:(0943)32-3000
ローム・メカテック株式会社	TEL:(0771)25-4717
ラピスセミコンダクタ株式会社	TEL:(045)476-9212
ラピスセミコンダクタ宮城株式会社	TEL:(022)345-1211
ラピスセミコンダクタ宮崎株式会社	TEL:(0985)85-5111
ローム滋賀株式会社	TEL:(077)531-3710

#### 物流・その他拠点

ローム・ロジステック株式会社	TEL:(0865)44-3181
成田技研株式会社	TEL:(06)6433-0410

### 〈Global〉

#### 主要営業拠点

ASIA	ROHM Semiconductor Korea Corporation TEL: +82-2-8182-700
	ROHM Semiconductor Trading (Dalian) Co., Ltd. TEL: +86-411-8230-8549
	ROHM Semiconductor (Shanghai) Co., Ltd. TEL: +86-21-6072-8612
	ROHM Semiconductor (Shenzhen) Co., Ltd. TEL: +86-755-8307-3008
	ROHM Semiconductor Hong Kong Co., Ltd. TEL: +852-2740-6262
	ROHM Semiconductor Taiwan Co., Ltd. TEL: +886-2-2500-6956
	ROHM Semiconductor Singapore Pte. Ltd. TEL: +65-6436-5100
	ROHM Semiconductor Philippines Corporation TEL: +63-2-807-6872
	ROHM Semiconductor (Thailand) Co., Ltd. TEL: +66-2-254-4890
	ROHM Semiconductor Malaysia Sdn. Bhd. TEL: +60-3-7931-8155
	ROHM Semiconductor India Pvt. Ltd. TEL: +91-44-4352-0008
AMERICA	ROHM Semiconductor U.S.A., LLC TEL: +1-408-720-1900
	ROHM Semiconductor do Brasil Ltda. TEL: +55-11-3539-6320
EUROPE	ROHM Semiconductor GmbH TEL: +49-2154-921-0

#### 開発拠点

ASIA	Korea Design Center	TEL: +82-2-8182-458
	Shanghai Design Center	TEL: +86-21-6072-8612
	Shenzhen Design Center	TEL: +86-755-8307-3008
	Taiwan Design Center	TEL: +886-2-2500-9390
	India Design Center	TEL: +91-80-4205-6225
AMERICA	America Design Center (Santa Clara)	TEL: +1-408-720-1900
EUROPE	Europe Design Center	TEL: +49-2154-9210
	ROHM POWERVATION Ltd.	TEL: +353-21-2425501

#### 生産拠点

ASIA	ROHM Korea Corporation	TEL: +82-2-8182-600
	ROHM Electronics Philippines, Inc.	TEL: +63-2-894-1536
	ROHM Integrated Systems (Thailand) Co., Ltd.	TEL: +66-2-909-7100
	ROHM Semiconductor (China) Co., Ltd.	TEL: +86-22-8398-9000
	ROHM Electronics Dalian Co., Ltd.	TEL: +86-411-8762-0001
	ROHM-Wako Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.	TEL: +60-9-7741500
	ROHM Mechatech Philippines, Inc.	TEL: +63-46-430-2281
	ROHM Mechatech (Thailand) Co., Ltd.	TEL: +66-36-374-580~4
AMERICA	Kionix, Inc.	TEL: +1-607-257-1080
EUROPE	SiCrystal AG	TEL: +49-911-8177599-0



[www.rohm.co.jp](http://www.rohm.co.jp)

